

野菜類－豆類(未成熟)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名								
						ネキリムシ類	ハダニ類	ハスモンヨトウ	ハモグリバエ類	カメムシ類	マメシシクイガ	アザミウマ類	アブラムシ類	コガネムシ類
1	ガードベイトA	抑制	普	ベルメトリン	3A	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2	コロマイト乳剤	抑制	普	ミルベメクテン	6	-	○	-	-	-	-	-	-	-
3	マラソン乳剤		普	マラソン	1B	-	○	-	○	○	○	○	○	○

野菜類－豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、さやえんどう、未成熟そらまめを除く)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						アザミウマ類	アズキノメイガ	アブラムシ類	ウラナミシジミ	ハモグリバエ類	マメシシクイガ	ヨトウムシ類
1	アディオソ乳剤	抑制	普	ベルメトリン	3A	○	○	○	○	○	○	○

野菜類－豆類(未成熟、ただし、えだまめを除く)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						ハモグリバエ類	ハスモンヨトウ
1	グレーシア乳剤	抑制	普	フルキサメタミド	30	○	○

野菜類－豆類(未成熟、ただし、さやいんげんを除く)－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						ハモグリバエ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ	ハダニ類	チャノホコリダニ
1	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクテン安息香酸塩	6	○	-	-	-	-
2	ダニトロンフロアブル		普	フェンピロキシメート	21A	-	-	-	○	○
3	ディアナSC		普	スピネトラム	5	○	○	○	-	-
4	ブレオフロアブル		普	ビリダリル	un	○	-	○	-	-

野菜類－豆類(未成熟)－その他

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						ハト	カラス
1	キヒゲンR-2フロアブル		普	チウラム	M3	○	○

野菜類－豆類(未成熟)－さやえんどう－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						灰色かび病	菌核病	うどんこ病	根腐病
1	アミスター20フロアブル		普	アゾキシストロピン	11	○	○	-	-
2	カンタスドライフロアブル		普	ボスカリド	7	○	-	-	-
3	ゲッター水和剤		普	1.ジエトフェンカルブ 2.チオファネートメチル	10、1	○	-	-	-
4	サンヨール		普	DBEDC	M1	○	-	○	-
5	セイビアーフロアブル20		普	フルジオキシニル	12	○	○	-	-
6	タチガレン液剤		普	ヒドロキシイソキサゾール	32	-	-	-	○
7	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	-	-	○	-
8	ラリー水和剤		普	ミクロブタニル	3	-	-	○	-
9	ロブラール水和剤		普	イブロジオン	2	○	-	-	-

野菜類－豆類(未成熟)－さやえんどう－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名												
						シロイチモジヨトウ	ナモグリバエ	ヨトウムシ類	ハモグリバエ類	ハスモンヨトウ	コガネムシ類幼虫	ハダニ類	アブラムシ類	ヨトウムシ	アザミウマ類	コナジラミ類	カメムシ類	うどんこ病
1	アタブロン乳剤	抑制	普	クロルフルアズロン	15	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アディオン乳剤	抑制	普	ベルメトリン	3A	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アニキ乳剤		普	レピメクチン	6	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アルバリン粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	○
7	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
8	カルホス粉剤		普	イソキサチオン	1B	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
9	コテツフロアブル		劇	クロルフェナビル	13	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
10	スカウトフロアブル	抑制	劇	トラロメトリン	3A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	スタークル粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	○
13	ダイアジノン乳剤40		劇	ダイアジノン	1B	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
14	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンブロックス	3A	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
15	ニツソラン水和剤		普	ヘキシチアゾクス	10A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
16	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	ハチハチフロアブル	抑制	劇	トルフェンピラド	I:21A F:39	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
18	プレバソンフロアブル5	抑制	普	クロラントラニリブロール	28	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
19	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	-	-

野菜類－豆類(未成熟)－さやいんげん－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名			
						灰 色 か び 病	菌 核 病	炭 疽 病	角 斑 病
1	アミスター20フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	○	○	-	○
2	カンタスドライフロアブル		普	ボスカリド	7	○	○	-	-
3	セイビアーフロアブル20		普	フルジオキシニル	12	○	○	-	-
4	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	○	○	-

野菜類－豆類(未成熟)－さやいんげん－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名												
						アブラムシ類	ハモグリバエ類	マメシクイガ	アズキノメイガ	マメハモグリバエ	タネバエ	ハダニ類	ワタアブラムシ	ハスモンヨトウ	アザミウマ類	コナジラミ類	カメムシ類	
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメキサム	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アグロスリン乳剤	抑制	劇	シペルメトリン	3A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アディオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-	○	-
4	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	アルバリン粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
8	ウララDF		普	フロニカミド	29	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	エルサン乳剤		劇	PAP	1B	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-
11	カルホス粉剤		普	イソキサチオン	1B	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
12	コテツフロアブル		劇	クロルフエナピル	13	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
13	スタークル粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
15	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
16	ダニトロンフロアブル		普	フェンピロキシメート	21A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
17	ダブルフェースフロアブル		普	1.ピフルブミド 2.フェンピロキシメート	25B、21A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
18	ディアナSC		普	スピネトラム	5	-	○	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-
19	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンブロックス	3A	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
20	ニッソラン水和剤		普	ヘキシチアゾクス	10A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
21	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
22	プレオフロアブル		普	ピリダリル	un	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
23	プレバソンフロアブル5	抑制	普	クロラントラニリプロール	28	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
24	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-

13-(18) さやいんげん（野菜類、豆類（未成熟）に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
モザイク病	播種前、生育期 1. 健全種子を用いる。 2. マルチ栽培を行う。 3. 幼苗期からアブラムシ類の防除を行う。 4. 発病株は早めに抜き取り処分する。	<ul style="list-style-type: none"> CMV など数種の病原ウイルスによるが、いずれもアブラムシ類によって伝搬され、このうちBCMV（インゲンマメモザイクウイルス）のみ種子伝染する。
根腐病	播種前 1. 連作を避ける。 2. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照）	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌（フザリウム）が長期間土中で生存し、土壌伝染する。
炭疽病	播種前 1. 連作を避ける。 2. 種子伝染を防ぐため、健全種子を用いる。	<ul style="list-style-type: none"> 罹病した茎葉とともにほ場周辺や資材上で越冬し、翌年、分生子を形成して伝染する。 収穫後の茎葉などは、適正に処理し、ほ場衛生に努める。
菌核病	播種前、生育期 1. 多肥栽培や密植栽培を避ける。 2. 過繁茂にならないようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 気温 15～25℃で降雨が多い時期は、発病に注意する。 前作に本病が発病したほ場や近隣に発生ほ場がある場合には、伝染源になりやすいので注意する。
角斑病	播種前 連作を避ける。 生育期 過繁茂を避け通風をよくする。	<ul style="list-style-type: none"> 本県では、高冷地での発生が多い。 罹病した茎葉内で越冬し、伝染源となるので、収穫後の茎葉を適正に処理する。 病斑上の分生胞子は、飛散により周囲の株に伝染し、多雨のときに多発しやすい。
灰色かび病	生育期 1. 多肥栽培や密植栽培を避ける。 2. 過繁茂にならないよう老化葉、発病葉は摘葉する。 3. 日中の換気により湿度低下に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 発病適温は20℃前後で、多湿時に発病しやすい。 曇雨天が続くと多発する。 ハウス栽培では密閉による多湿が誘引となって蔓延するので注意する。
かさ枯病	播種前、生育期 無病種子を使用し、発病株は早期に抜き取る。	<ul style="list-style-type: none"> 多湿条件で多発生しやすく蔓延しやすい。 病患部から細菌液が溢出していることがある。 病斑上の病原細菌は、風雨や農作業等によって隣接株へ次々と蔓延するので注意する。
ハダニ類	（ハダニ類防除薬剤の特性の項参照）	<ul style="list-style-type: none"> 露地栽培では、梅雨明けの高温期から発生が増加する。 ハウス栽培では、乾燥条件下で発生が増加する。 発生が多くなってからでは、防除が困難となる。 ハダニ類は薬剤抵抗性がつきやすいので同一薬剤の連用は避ける。

野菜類－豆類(未成熟)－えだまめ－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名														
						ハスモンヨトウ	アブラムシ類	カメムシ類	マメシクイガ	タネバエ	ネキリムシ類	コナジラミ類	シロイチモジマダラメイガ	ダイズサヤタマバエ	マメヒメサヤムシガ	ダイズシストセンチュウ	アザミウマ類	コガネムシ類	コガネムシ類幼虫	
13	サンマイトフロアブル		劇	ピリダベン	21A	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
14	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
15	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	-	○	○	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-
16	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	-	-	○	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○
17	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	トルネードエースDF	抑制	普	インドキサカルブ及びインドキサカルブMP	22A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	トレボンEW	抑制	普	エトフェンブロックス	3A	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンブロックス	3A	○	-	○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
21	ネキリエースK		普	イソキサチオン	1B	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	ネマキック粒剤		普	イミシアホス	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
23	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	プレバソンフロアブル5	抑制	普	クロラントラニプロール	28	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25	マトリックフロアブル	抑制	普	クロマフェノジド	18	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26	ヨーバルフロアブル	抑制	普	テトラニプロール	28	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
27	モスピラン粒剤	抑制	普	アセタミプリド	4A	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-
29	ラグビーMC粒剤		普	カズサホス	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
30	ランネート45DF	重点	劇	メソミル	1A	○	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-

野菜類－豆類(未成熟)－えだまめ－その他

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						紫斑病	苗立枯病	タネバエ
1	キヒゲンR-2フロアブル		普	チウラム	M3	○	○	○

13-(19) えだまめ（野菜類、豆類（未成熟）に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前 1. 連作を避ける。 2. 排水を良好にする。 3. 種子消毒済の種子を使用する。 4. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照）	・セルトレイ育苗専用培土は保水性がよいため、土壌水分の過剰に注意する。
べと病	播種前、生育期 1. 連作や密植を避ける。 2. 被害茎葉は集めて処分する。 3. 莢にも被害が発生することがあるため、梅雨入り後、開花する作型では、開花前後に適用薬剤を散布する。	・はじめ葉表面に黄色の小斑点が現れる。病斑はしだいに大きくなり、葉裏に汚白色のカビを生じる。 ・梅雨や秋雨などの湿度が高い時期に発病が多い。 ・主に葉に発生するが、莢表面・内部でも発生する。 ・莢表面では黄化症状や微細な斑点が生じ、梅雨時期など曇雨天が続くと多発する。
茎疫病	播種前 1. 連作を避ける。 2. 排水を良好にする。	・茎の地際部、主茎や分枝に水浸状の条斑や病斑を生じ、茎を取り巻くようになる。 ・病斑の表面は白粉状のカビで覆われ、株はしだいに黄化、萎凋し、枯死する。
黒根腐病	播種前 1. 連作を避ける。 2. 排水を良好にする。	・地際から3~4cmの茎が腐敗し、オレンジ色の小粒（子のう殻）を形成する。 ・根はもろく折れやすくなり、容易に抜ける。
葉焼病	播種前、生育期 1. 連作を避ける。 2. 健全種子を用いる。 3. 被害茎葉は翌年の発生源になるので処分する。	・開花期以降に雨が降り多い年は発病しやすい。 ・細菌性の病害で、気孔あるいは傷口などから侵入し、主に葉に発病する。
モザイク病	播種前 健全種子を用いる。 生育中 1. 幼苗期からアブラムシ類を防除する。 2. 発病株は早めに抜き取り処分する。	
ダイズシストセンチュウ	播種前 1. 連作を避ける。 2. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） 3. 使用した農機具はよく洗浄し、付着土壌を落とす。	・対抗植物であるクロタラリアやクローバーを栽培すると、線虫卵が孵化するが寄生できず死滅するため、線虫の増殖を抑制する。
ダイズサヤマバエ	生育期 1. ほ場周辺の除草をする。 2. 開花終期~莢伸長期に適用薬剤を散布する。	・幼虫が莢内子実に寄生し、莢の発育を止める。 ・夏期高温の年に被害が多い。
チョウ目害虫（マメシクイガなど）	生育期 1. ほ場周辺の除草をする。 2. 莢伸長終期~子実肥大初期に適用薬剤を散布する。	・マメシクイガ、シロイチモジマダラメイガの幼虫は子実のみ食害し、ダイズサヤマシガの幼虫は莢および子実を食害し、莢が黒変する。
カメムシ類	生育期 1. ほ場周辺の除草をする。 2. 結莢期~子実肥大中期に適用薬剤を散布する。	・葉や茎に外傷がないため被害が目立たないが、莢や子実が吸汁加害される。

野菜類－葉菜類－結球あぶらな科葉菜類－キャベツ－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名												
						株腐病	菌核病	根こぶ病	黒腐病	黒斑細菌病	軟腐病	べと病	苗立枯病(リゾクトニア菌)	黒すす病	黒斑病	根朽病	ビシウム腐敗病	アブラムシ類
1	Zボルドー		普	銅	M1	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
2	アグリマイシン-100		普	1.オキシテトラサイクリン 2.ストレプトマイシン	25,41	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アフエットフロアブル		普	ベンチオピラド	7	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
4	アミスター20フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
5	オラクル粉剤		普	アミスルブロム	21	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	オラクル顆粒水和剤		普	アミスルブロム	21	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	オリゼメート粒剤		普	プロベナゾール	P2	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	オロンディスウルトラSC		普	1.オキサチアピプロリン 2.マンジフロバミド	49,40	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
9	カスミンボルドー		普	1.カスガマイシン 2.銅	24, M1	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
10	カセット水和剤		普	1.オキシリニック酸 2.カスガマイシン	31, 24	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
11	カッパーシン水和剤		普	1.カスガマイシン 2.銅	24, M1	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
12	カンタスドライブフロアブル		普	ボスカリド	7	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
13	キノンドーフロアブル		普	有機銅	M1	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14	ゲッター水和剤		普	1.ジエトフェンカルブ 2.チオファネートメチル	10, 1	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	ジオゼット水和剤		普	ポリオキシシン	19	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	シグナムWDG		普	1.ピラクロストロビン 2.ボスカリド	11, 7	○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-
17	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
18	スターナ水和剤		普	オキシリニック酸	31	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
19	スミレックス水和剤		普	プロシミドン	2	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	セイビアーフロアブル20		普	フルジオキシソニル	12	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21	ダコニール1000		普	TPN	M5	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-
22	タチガレファイト液剤		普	ヒドロキシイソキサゾール	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
23	ドイツボルドーA		普	銅	M1	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
24	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
25	ナレート水和剤		普	1.オキシリニック酸 2.有機銅	31, M1	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
26	ネクスターフロアブル		普	イソピラザム	7	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
27	ネビジン粉剤		普	フルスルファミド	36	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28	ネビモン粉剤		普	1.フルスルファミド 2.フルトラニル	36, 7	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-

野菜類－葉菜類－結球あぶらな科葉菜類－キャベツ－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名																
						ウワバ類	オオタバコガ	ハイマダラノメイガ	ハスモンヨトウ	ヨトウムシ	アオムシ	キスジノミハムシ	コナガ	アブラムシ類	タマナギンウワバ	アザミウマ類	カブラハバチ幼虫	ネキリムシ類	シロイチモジヨトウ	ネギアザミウマ	ネグサレセンチュウ	ナメクジ類
30	ダントツ粒剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	○	-	-	○	-	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-
31	ディアナSC		普	スピネトラム	5	○	○	○	○	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
32	トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフロル	4C	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-
33	トルネードエースDF	抑制	普	インドキサカルブ及びインドキサカルブMP	22A	○	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
34	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンプロックス	3A	-	-	-	-	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
35	ネキリエースK		普	イソキサチオン	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
36	ネマキック粒剤		普	イミシアホス	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
37	ハクサップ水和剤	抑制	劇	1. フェンパレレート 2. マラソン	3A、1B	-	○	-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
38	バダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	-	-	○	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○
39	ハチハチフロアブル	抑制	劇	トルフェンピラド	E:21A F:39	-	-	○	-	-	○	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
40	ファインセーブフロアブル	抑制	劇	フロメキン	34	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
41	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
42	フォース粒剤	抑制	劇	テフルトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
43	プリンス粒剤		普	フィプロニル	2B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
44	ブレオフロアブル		普	ピリダリル	un	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-
45	ブレバサンフロアブル5	抑制	普	クロラントラニリプロール	28	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
46	プロフレアSC	抑制	普	プロフラニリド	30	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
47	ベリマークSC	抑制	普	シアントラニリプロール	28	○	-	○	○	○	-	○	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-
48	マッチ乳剤	抑制	普	ルフェヌロン	15	-	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
49	ミネクトデュオ粒剤	抑制	普	1.シアントラニリプロール 2. チアトキサム	28,4A	-	-	○	-	-	○	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
50	モスピラン粒剤	抑制	普	アセタミプリド	4A	-	-	○	○	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
51	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	-	-	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
52	モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	-	-	-	-	-	○	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
53	ラグビーMC粒剤		普	カズサホス	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
54	ランネット45DF	重点	劇	メソミル	1A	-	-	-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
55	リーフガード顆粒水和剤	抑制	劇	チオシクラム	14	-	-	○	-	-	○	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	○

13-(20) キャベツ

(野菜類、葉菜類、結球あぶらな科葉菜類、あぶらな科野菜に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
苗立枯病	<p>播種前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 育苗ほ場の土壌消毒を行う。(土壌くん蒸剤の項参照) 2. 育苗中は、高温多湿にならないようにする。 3. 発病株は除去し、袋に入れ密閉し太陽光線にあてて菌を死滅させる。 4. 未熟な有機物を施用しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リゾクトニア菌による苗立枯病は、定植後～生育中期に発病する。地際部が褐変腐敗して繊維質が残り、葉は黄化または紫赤色化してしおれ、病気が進行すると株が枯死する。 ・発病株を放置すると翌年の伝染源となる。
黒すす病	<p>播種前</p> <p>種子消毒を行う。</p> <p>植付前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 育苗中は、高温多湿にならないようにする。 2. 発病株は除去し、2次伝染を防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗期の子葉に斑点ができ、後に胚軸に亀裂黒変を生じ、立ち枯れ症状となる。 ・本病は、種子伝染する。 ・発病には品種間差がある。 ・育苗床を連作すると、発病しやすい。
黒腐病	<p>播種前、植付前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 育苗や定植ほ場での連作を避ける。 2. 窒素過多を避ける。 3. 罹病苗を定植すると被害が大きくなるので、雨よけハウスで育苗する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本病は種子伝染する。 ・発病には品種間差がある。 ・泥はねにより、傷口から菌が侵入するので、強風雨や降雹後は早急に適用薬剤を散布する。 ・セル苗など雨よけ育苗された苗の利用により、発病が軽減する。 ・発病後の防除効果は低いので、育苗中から予防散布を重点に行う。 ・無機銅水和剤の散布は薬害を生じやすいので、炭酸カルシウム水和剤を加用する(汚れ注意)。 ・マイシン剤は高濃度で使用するとクロロシス(黄化現象)を生ずることがあり、特に高温時には薬害が出やすいので注意する。
黒斑細菌病	<p>植付前</p> <p>アブラナ科野菜の連作を避け、輪作を行う。 感染苗の除去を徹底する。</p> <p>生育期</p> <p>発病を確認したら速やかに適用薬剤を散布する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病原細菌は風雨により飛散し、水孔や風雨による傷口、害虫の食害痕などから侵入し伝染する。 ・油浸状の病斑には、カビも輪紋も生じない。
軟腐病	<p>生育中</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発病株は早期に抜き取り処分する。 2. 窒素過多を避ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結球部(表面の1~2枚下)や収穫時の切断面付近に発生する。 ・強風雨で傷が付いたら、早急に適用薬剤を散布する。 ・発病後の防除効果は低いので、予防散布を重点に行う。 ・無機銅水和剤の散布は薬害を生じやすいので、炭酸カルシウム水和剤を加用する(汚れ注意)。 ・特に、結球期以降は銅水和剤の薬害が出やすいので注意する。

各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
根こぶ病	播種前、植付前 1. 発病ほ場は、アブラナ科の連作を避けて3年以上の輪作を行う。 2. 低湿地を避け、排水を良好にする。 3. 石灰類を施用し土壌酸度を矯正する。	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌 pH7 以上で発病が低減する。 ・青首ダイコン（宮重系）や葉ダイコンを輪作すると菌密度が低下する。 ・黄褐色下層土は、発病を抑止する。 ・高温長日で発病を促進し、低温短日で抑制する。
株腐病	植付前 土壌伝染するのでアブラナ科野菜の連作を避ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・発病適温は 22～25℃で、結球から収穫期に降雨が続くと発病が助長される。 ・発病には品種間差があり、春系は発生しやすい。
菌核病	播種前、生育期 1. 発病ほ場の連作を避ける。 2. 発病株は早期に抜き取り処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・春秋期の低温多湿条件で発病しやすく、気温が 20℃の頃に多発する。
萎黄病	播種前 1. 連作を避ける。 2. 抵抗性品種を作付ける。 3. 育苗ほ場は無病地に設けるか、土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照）	
パーティシリウム萎凋病	植付前 1. キャベツの連作や、本病の宿主作物の作付けを避ける。（パーティシリウム病対策の項参照） 2. 耐病性の品種を作付ける。 3. エンバク（ニューオーツ、ヘイオーツ等）を作付けすると、被害軽減効果がある。 4. ダゾメット剤、カーバム剤で土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） （ネグサレセンチュウの防除対策の項参照）	<ul style="list-style-type: none"> ・発病に品種間差がある。 ・キタネグサレセンチュウによって発病が助長されるので、センチュウ防除効果が期待できるエンバク（ニューオーツ、ヘイオーツ等）の作付けを行う。 ・収穫遅れや、残さの放置は菌密度を高める原因となるので、収穫後は速やかに耕起する。 ・セル苗等を利用することで、発病が抑制される。 ・発病ほ場で使用した作業機は、ほ場移動時に洗浄し、発病土の持ち込みを防ぐ。
べと病	植付前、生育期 1. 窒素過多を避ける。 2. 発病ほ場の連作を避ける。 3. 発病株は早期に抜き取る。 4. 適用薬剤で結球初期までの予防散布を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ・湿度が高く、日中の気温が 24℃以下で、夜間が 8～16℃の時に最も発病しやすい。 ・発病に品種間差があり、育苗～結球期に発生するため、育苗期から防除を徹底する。 ・アブラナ科野菜を連作すると発生が多い。
黒斑病	植付前 肥切れしないように適正な施肥をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・曇雨天で多湿状態が続くと結球部まで被害が出る。
ピシウム腐敗病	植付前、生育期 1. 発病ほ場の連作を避ける。 2. 排水を良好にする。 3. 結球期が高温多湿となる作型では、結球初期までの予防散布を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫期の茎部に腐敗病斑が形成され、結球部の切り口が褐変する。 ・キャベツでは苗立枯症状も引き起こす。

各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
コナガ	(コナガの防除対策の項参照)	・県内でジアミド系(IRACコード:28)殺虫剤の防除効果の低下が確認されている。
ハスモンヨトウ	(ハスモンヨトウの防除対策の項参照)	
タマナギンウワバ	生育期 若齢期の防除を徹底する。	・近年の孳恋村では発生が前進化しており、6月の発生が多い。
タネバエ	収穫後 収穫後の残さは早めにすき込み分解を促す。	・高冷地での被害発生は5~6月に多い。 ・鶏糞や堆肥、有機質肥料など、緑肥等のすき込み後に未熟な有機物へ成虫が飛来する。 ・成虫は低温と多湿環境を好んで産卵し、孵化した幼虫が加害する。
ネキリムシ類	育苗期、生育期 被害にあった株のまわりを掘って捕殺する。	・春~秋にかけて発生する。 ・雑草が繁茂していたほ場に作付けると被害が多発する。

野菜類－あぶらな科野菜(花蕾及び茎)－はなやさい類－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						菌核病	黒すす病	べと病	黒斑細菌病	花蕾腐敗病
1	クプロシールド		普	銅	M1	-	-	-	○	○
2	シグナムWDG		普	1.ピラクロストロピン 2.ボスカリド	11、7	○	○	○	-	-

野菜類—あぶらな科野菜(花蕾及び茎)—はなやさい類—ブロccoli—殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名										
						ハスモンヨトウ	ヨトウムシ	コナガ	アオムシ	ハイマダラノメイガ	アブラムシ類	オオタバコガ	ネキリムシ類	カブラハバチ	シロイチモジヨトウ	
1	アクセルフロアブル	抑制	普	メタフルミゾン	22B	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アクタラ粒剤5	抑制	普	チアメトキサム	4A	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-
3	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
4	アタプロン乳剤	抑制	普	クロルフルアズロン	15	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
5	アディオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
6	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
7	アドマイヤーフロアブル		劇	イミダクロプリド	4A	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
8	アニキ乳剤		普	レピメクチン	6	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
9	アフアーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-
10	アルバリン粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
11	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
12	ウララDF		普	フロニカミド	29	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
13	オルトラン粒剤		普	アセフェート	1B	-	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-
14	ガードベイトA	抑制	普	ペルメトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
15	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
16	グレーシア乳剤	抑制	普	フルキサメタミド	30	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-
17	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
18	ジェイエース粒剤		普	アセフェート	1B	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	ジュリボフロアブル	抑制	普	1. クロラントラニリプロール 2. チアメトキサム	28、4A	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-
20	スタークル粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
21	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-
22	スピノエース顆粒水和剤	抑制	普	スピノサド	5	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
23	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
24	ダントツ水溶剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-
25	ダントツ粒剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-

野菜類－あぶらな科野菜(花蕾及び茎)－はなやさい類－ブロッコリー－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名									
						ハスモンヨトウ	ヨトウムシ	コナガ	アオムシ	ハイマダラノメイガ	アブラムシ類	オオタバコガ	ネキリムシ類	カブラハバチ	シロイチモジヨトウ
26	ディアナSC		普	スピネトラム	5	○	○	○	○	○	-	○	-	-	-
27	トランスフォームフロアブル		普	スルホキサフロル	4C	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
28	トルネードエースDF	抑制	普	インドキサカルブ及びインドキサカルブMP	22A	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
29	ネキリエースK		普	イソキサチオン	1B	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
30	ファインセーブフロアブル	抑制	劇	フロメキン	34	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
31	バダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
32	ハチハチ乳剤	抑制	劇	トルフェンピラド	I:21A F:39	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-
33	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-
34	ブレオフロアブル		普	ピリダリル	un	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○
35	ブレバゾンフロアブル5	抑制	普	クロラントラニプロール	28	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-
36	ベストガード粒剤		普	ニテンピラム	4A	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
37	ベリマークSC	抑制	普	シアントラニプロール	28	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-
38	マラソン乳剤		普	マラソン	1B	-	-	-	○	-	○	-	-	○	-
39	モスピラン粒剤	抑制	普	アセタミプリド	4A	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-
40	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-
41	ランネット45DF	重点	劇	メソミル	1A	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-

13-(22) ブロッコリー（野菜類、はなやさい類、あぶらな科野菜(花蕾及び茎)、あぶらな科野菜に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
黒腐病	播種前、植付前 1. 連作を避ける。 2. 苗床は土壤消毒を行う。(土壤くん蒸剤の項参照) 3. 低湿地の栽培を避ける。 4. 窒素過多を避ける。	・細菌による病害である。
根こぶ病	播種前、植付前 1. 発病地は3年以上の輪作を行う。 2. 低湿地を避け、排水を良好にする。 3. 石灰類により土壤酸度を矯正する。 4. 土壤消毒を行う。(土壤くん蒸剤の項参照)	・土壤が酸性に傾くと発病しやすい。
苗立枯病	播種前 床土の土壤消毒を行う。(土壤くん蒸剤の項参照)	
べと病	播種前 1. アブラナ科野菜の連作を避ける。 2. 排水を良好にする。 生育期 1. 健全な苗を定植する。 2. 肥切れ、窒素過多を避ける。 3. 発病しにくい品種を利用する。 4. 花蕾の黒褐変症状対策として、出蕾期の防除を徹底する。	・低温多湿条件で発生が多い。 ・病原菌はカリフラワーやキャベツにも寄生性がある。 ・病原菌は、花蕾に黒褐変症状を引き起こす。 ・花蕾の黒褐変症状は、12~1月収穫の作型で発生が多い。
黒斑細菌病	播種前 アブラナ科作物の連作を避け、輪作を行う。 生育期 1. 肥切れすると発生しやすいので、適時追肥を行う。 2. 発病株は抜き取ってほ場外に持ち出して処分する。 3. 秋の長雨や風雨のあとに多発しやすいので、防除を行う。	・細菌による病害である。 ・ダイコン、ハクサイ、キャベツ、ハナヤサイなどのアブラナ科野菜にも発生する。
菌核病	生育期 1. 湛水が可能なほ場では、夏季に約1ヶ月以上の湛水処理で、菌核を死滅させる。 2. 発病株は抜き取ってほ場外に持ち出して処分する。 3. 適用薬剤を株元に十分かかるよう散布する。	
花蕾腐敗病	播種前 1. 連作を避ける。 2. ほ場の排水を良好にする。 生育期 1. 窒素肥料の過剰を避け、適正施肥を行う。 2. 発病株は抜き取ってほ場外に持ち出して処分する。 3. 適用薬剤で予防散布を行う。	・細菌による病害である。
黒すす病	生育期 1. 育苗中は、高温多湿にならないようにする。 2. 発病株は除去し、2次伝染を防止する。 3. 多湿条件で発生しやすいので、防除を行う。	・花蕾および葉に発生する。 ・本病は、種子伝染する。 ・感染苗を定植しない。

野菜類－あぶらな科野菜(花蕾及び茎)－はなやさい類－カリフラワー－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名				
						根こぶ病	軟腐病	べと病	菌核病	黒腐病
1	オラクル粉剤		普	アミスルブロム	21	○	-	-	-	-
2	スターナ水和剤		普	オキシリニック酸	31	-	○	-	-	-
3	ダコニール1000		普	TPN	M5	-	-	○	-	-
4	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	-	-	○	-
5	ネビジン粉剤		普	フルスルファミド	36	○	-	-	-	-
6	フロンサイド粉剤		普	フルアジナム	29	○	-	-	-	-
7	ヨネポン水和剤		普	ノニルフェノールスルホン酸銅	M1	-	-	-	-	○
8	ライメイフロアブル		普	アミスルブロム	21	-	-	○	-	-

野菜類—あぶらな科野菜(花蕾及び茎)—はなやさい類—カリフラワー—殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病虫害雑草名											
						コナガ	アブラムシ類	ハスモンヨトウ	アオムシ	アザミウマ類	オオタバコガ	ハイマダラノメイガ	カブラハバチ幼虫	ヨトウムシ	ネキリムシ類	カブラハバチ	
1	アタブロン乳剤	抑制	普	クロルフルアズロン	15	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アディオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アニキ乳剤		普	レピメクチン	6	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-
5	ウララDF		普	フロニカミド	29	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	エルサン乳剤		劇	PAP	1B	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-	-	-
7	ガードベイトA	抑制	普	ペルメトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
8	グレーシア乳剤	抑制	普	フルキサメタミド	30	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
9	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	ジェイエース水溶剤		普	アセフェート	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
11	スピノエース顆粒水和剤	抑制	普	スピノサド	5	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	ダイアジノン乳剤40		劇	ダイアジノン	1B	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
13	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
14	ディアナSC		普	スピネトラム	5	○	-	○	○	○	-	○	-	○	-	-	-
15	プリンスフロアブル		劇	フィプロニル	2B	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
16	プレバソンフロアブル5	抑制	普	クロラントラニリプロール	28	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
17	ベストガード水溶剤		普	ニテンピラム	4A	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
18	ベストガード粒剤		普	ニテンピラム	4A	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
19	マラソン乳剤		普	マラソン	1B	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○
20	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
21	ランネート45DF	重点	劇	メソミル	1A	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-

野菜類－葉菜類－結球あぶらな科葉菜類－はくさい－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名												
						黒斑細菌病	軟腐病	菌核病	黒斑病	尻腐病	白斑病	べと病	白さび病	苗立枯病	根こぶ病	ピシウム腐敗病	黄化病	炭疽病
1	アグリマイシンー100		普	1.オキシテトラサイクリン 2.ストレプトマイシン	41、25	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アグレプト液剤		普	ストレプトマイシン	25	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アグレプト水和剤		普	ストレプトマイシン	25	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アフエットフロアブル		普	ペンチオピラド	7	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
5	アミスター20フロアブル		普	アゾキシストロピン	11	-	-	-	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-
6	オーソサイド水和剤80		普	キャブタン	M4	-	-	-	○	-	○	○	-	○	-	-	-	○
7	オラクル粉剤		普	アミスルブロム	21	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-
8	オラクル顆粒水和剤		普	アミスルブロム	21	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
9	カセット水和剤		普	1.オキシリニック酸 2.カスガマイシン	31、24	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	キノンドーフロアブル		普	有機銅	M1	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	ザンプロDMフロアブル		普	1.アメクトラジン 2.ジメトモルフ	45、40	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
12	シグナムWDG		普	1.ピラクロストロピン 2.ボスカリド	11、7	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	○
13	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-
14	スターナ水和剤		普	オキシリニック酸	31	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	ストロビーフロアブル		普	クレソキシムメチル	11	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-
16	ゾーベック エンカンティア SE		普	1.オキサチアピプロリン 2.ファモキサドン	49,11	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
17	ダコニール1000		普	TPN	M5	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-
18	ドーシャスフロアブル		普	1. TPN 2. シアゾファミド	M5、21	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-
19	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○
20	ナレート水和剤		普	1.オキシリニック酸 2.有機銅	31、M1	-	○	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-
21	ネクスターフロアブル		普	イソピラザム	7	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
22	ネビジン粉剤		普	フルスルファミド	36	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
23	バリダシン液剤5		普	バリダマイシン	U18	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	パレード20フロアブル		普	ピラジフルミド	7	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
25	ピシロックフロアブル		普	ピカルブトラゾクス	U17	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-
26	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○
27	フォリオゴールド		普	1. TPN 2. メタラキシル及びメタラキシルM	M5、4	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-
28	プロポーズ顆粒水和剤		普	1. TPN 2. ベンチアバリカルブイソプロピル	M5、40	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-

野菜類－葉菜類－結球あぶらな科葉菜類－はくさい－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名												
						黒斑細菌病	軟腐病	菌核病	黒斑病	尻腐病	白斑病	べと病	白さび病	苗立枯病	根こぶ病	ピシウム腐敗病	黄化病	炭疽病
29	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-
30	フロンサイド粉剤		普	フルアジナム	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-
31	ポリオキシシAL水溶剤		普	ポリオキシシ	19	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
32	ヨネポン水和剤		普	ノニルフェノールスルホン酸銅	M1	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
33	ランマンフロアブル		普	シアゾファミド	21	-	-	-	-	-	○	○	-	○	○	-	-	-
34	レーバスフロアブル		普	マンジプロバミド	40	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
35	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-

野菜類－葉菜類－結球あぶらな科葉菜類－はくさい－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名															
						アブラムシ類	カブラハバチ	カブラハバチ類	カブラハバチ幼虫	ハイマダラノメイガ	タマナギンウワバ	コナガ	アオムシ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	オオタバコガ	キスジノミハムシ	コガネムシ類幼虫	ネキリムシ類	ネグサレセンチュウ	ナメクジ類
1	アクセルフロアブル	抑制	普	メタフルミジン	22B	-	○	-	-	○	-	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-
2	アクタラ粒剤5	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アグロスリン水和剤	抑制	劇	シペルメトリン	3A	○	-	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
5	アタプロン乳剤	抑制	普	クロルフルアズロン	15	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
6	アディオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
7	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	アドマイヤーフロアブル		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	アニキ乳剤		普	レピメクテン	6	-	○	-	-	○	-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-
10	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクテン安息香酸塩	6	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
11	アルバリン粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
12	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
13	エルサン乳剤		劇	PAP	1B	○	-	-	○	○	-	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-
14	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	○	○	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
15	オルトラン粒剤		普	アセフェート	1B	○	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	○	-	-
16	ガードベイトA	抑制	普	ペルメトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
17	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
18	カルホス微粒剤F		劇	イソキサチオン	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
19	グレーシア乳剤	抑制	普	フルキサメタミド	30	-	-	-	-	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-
20	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	○	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
21	ジェイエース水溶剤		普	アセフェート	1B	○	-	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
22	ジェイエース粒剤		普	アセフェート	1B	○	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
23	ジュリボフロアブル	抑制	普	1.クロラントラニリプロール 2.チアメトキサム	28、4A	○	○	-	-	○	-	○	-	○	○	-	○	-	-	-	-
24	スカウトフロアブル	抑制	劇	トラロメトリン	3A	○	-	-	-	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
25	スタークル粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
26	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
27	スピノエース顆粒水和剤	抑制	普	スピノサド	5	-	○	-	-	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-

野菜類-葉菜類-結球あぶらな科葉菜類-はくさい-殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名													
						アブラムシ類	カブラハバチ	カブラハバチ類	カブラハバチ幼虫	ハイマダラノメイガ	タマナギンウワバ	コナガ	アオムシ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	オオタバコガ	キスジノミハムシ	コガネムシ類幼虫	ネキリムシ類
28	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-
29	ディアナSC		普	スピネトラム	5	-	-	-	-	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-
30	トルネードエースDF	抑制	普	インドキサカルブ及び インドキサカルブMP	22A	-	-	○	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-
31	トレボンEW	抑制	普	エトフェンブロックス	3A	○	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
32	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンブロックス	3A	○	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-
33	ネマキック粒剤		普	イミシアホス	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
34	ファインセーブフロアブル	抑制	劇	フロメトキン	34	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
35	ハクサップ水和剤	抑制	劇	1. フェンバレレート 2. マラソン	3A、1B	○	○	-	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-
36	パダんSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	○
37	ハチハチフロアブル	抑制	劇	トルフェンピラド	I:21A F:39	○	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	○	-	○
38	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-
39	フォース粒剤	抑制	劇	テフルトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
40	ブリロッソ粒剤オメガ	抑制	普	シアントラニリブ ロール	28	○	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-
41	ブレオフロアブル		普	ピリダリル	un	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	○	-	-	-
42	プレバソソフロアブル5	抑制	普	クロラントラニリブ ロール	28	-	-	○	-	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-
43	プロフレアSC	抑制	普	プロフラニリド	30	-	-	○	-	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-
44	ペリマークSC	抑制	普	シアントラニリブ ロール	28	○	-	○	-	○	-	○	○	-	○	-	-	-	-
45	マッチ乳剤	抑制	普	ルフェスロン	15	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
46	マラソン乳剤		普	マラソン	1B	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
47	モスピラン粒剤	抑制	普	アセタミプリド	4A	○	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-
48	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
49	モベントフロアブル		普	スピロテトラマト	23	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50	ランネット45DF	重点	劇	メソミル	1A	○	-	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-
51	リーフガード顆粒水和剤	抑制	劇	チオシクラム	14	○	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-	-	-	○

13-(24) はくさい

(野菜類、葉菜類、結球あぶらな科葉菜類、あぶらな科野菜に登録のある農薬も使用可能)

病害虫名	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前 1. 無病の培養土を用い、ペーパーポット、セルトレイなどで育苗を行う。 2. 育苗資材の洗浄、消毒を徹底する。 (資材消毒の項参照)	
白さび病	播種前、植付前 アブラナ科野菜の連作を避ける。 生育期 発病葉や残渣はほ場外へ持ち出して処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・低温多湿条件で発病が多い。 ・ハクサイで発病する系統はキョウナ、カブ、コマツナ、タイサイなども侵すが、ダイコンやカラシナを侵す系統とは異なる。
べと病	植付前 密植しすぎないように株間や条間を広げ、高畦栽培して通風を良くする。 生育期 1. 窒素過多を避ける。 2. 結球期まで定期的な防除を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・低温多湿条件で発病が多い。 ・葉身に発病するほか、結球部の葉柄部に黒変症状を生じる。 ・ストロビーフロアブル(結球後期まで、高温多湿)、アミスター20フロアブル(結球前、高温)は薬害を生じる場合がある。また、浸透性を高める展着剤の混用で薬害を生じることがある。
黒斑病 白斑病	植付前 排水不良や地下水位が高いほ場は対策を行い、なるべく高畦とし密植をさける。 生育期 1. 空気伝染するため、発病初期に防除する。 2. 肥切れしないように適切な追肥を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・両病害とも比較的低温で多雨時に発病が多い。 ・黒斑病は淡褐色の円形で、同心円状の輪紋ができる。肥切れ状態の時に、結球始期から球の肥大充実期に発病しやすい。 ・白斑病は、葉に大型の灰白色の斑点を生ずる。 ・ストロビーフロアブル、アミスター20フロアブルの薬害については、べと病の項を参照。
炭疽病	生育期 1. 育苗は雨よけ被覆を行う。 2. 発病葉や残渣はほ場外へ持ち出して処分する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本病は風雨により蔓延するため、夏から秋に低温多雨になると発病しやすい。 ・症状は、葉身に微小な斑点を形成するほか、中肋に白褐色の大型紡錘形の斑点を生じて中央部分が陥没する。
黄化病	播種前、植付前 1. アブラナ科野菜の連作を避け、イネ科作物等と輪作をする。 2. 耐病性品種を使用し、高温期の収穫を避ける。 3. 栽培ほ場を土壌消毒する。(土壌くん蒸剤の項参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・本病はキタネグサレセンチュウによって発病が助長されるので、防除にあたってはセンチュウの防除もあわせて行う。 ・発病後の防除法はないので、なるべく早く収穫する。
軟腐病	播種前、植付前 窒素の過剰な施用は行わない。 生育期 1. 適用薬剤で結球始期から収穫初期までの予防散布に努める。 2. 食害跡などの傷口、気孔や水孔から感染し発病するので、防除に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・高温時に結球する作型は、発病が多い。 ・無機銅水和剤は薬害を生じやすいので、炭酸カルシウム水和剤を加用する。 ・マイシン剤は幼苗期及び高温多湿時の散布で薬害の恐れがある。

各論作成日:2022年11月1日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
黒斑細菌病	<p>播種前 アブラナ科野菜の連作を避け、輪作を行う。</p> <p>生育期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 排水対策を行い、なるべく高畦にして密植を避ける。 2. 発病株は抜き取ってほ場外に持ち出して処分する。 3. 発生前の予防または発生初期に適用薬剤を散布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイコン、キャベツ、ブロッコリーなどのアブラナ科野菜に発生する。 ・排水不良地や秋の長雨や風雨のあとは発生しやすい。
根こぶ病	<p>播種前、植付前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 抵抗性(CR)品種を栽培する。 2. 無病の培養土を用い、ペーパーポット、セルトレイなどで育苗を行う。 3. キャベツの根こぶ病に準ずる。 4. 前作の被害株は抜き取り、コブが形成された根を畑に残さないように処分する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・抵抗性(CR)品種でも発病する場合がある。
えそモザイク病 モザイク病	<p>播種前、植付前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 育苗床を1mm目合いの防虫ネットなどで被覆する。 2. シルバーマルチ栽培を行う。 <p>生育期</p> <p>生育初期のアブラムシ類防除を行う。</p>	
菌核病	<p>植付前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連作をさける。本病が発病するアブラナ科作物やレタスなどとの輪作をさける。 2. 地表の菌核が一次伝染源となるので、深耕して菌核を地中に埋め込むか、夏期に太陽熱消毒または湛水処理を行う。 <p>生育期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発病株は見つけ次第抜き取り、菌核を生じないうちに持ち出し処分を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病斑上に形成した菌核で越冬し、春と秋に子のう盤をつくり、子のう胞子を飛ばして伝染する。
コナガ	<p>播種前、植付前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発生密度が高まらないように、初期防除を徹底する。 2. 薬剤抵抗性の発達を避けるため、単一薬剤の連用を避け、系統の異なる適用薬剤を組み合わせた体系的防除を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランネート45DF(定植後20日以内の散布)は「葉やけ」、コテツフロアブル(幼苗期散布)は「葉の白化」などの薬害を生じる場合がある。 ・県内のキャベツではジアミド系殺虫剤の感受性が低下した個体群が確認されている。
ハイマダラノメイガ	<p>播種前、植付前</p> <p>育苗床を1mm目合いの防虫ネットなどでトンネル被覆する。</p> <p>生育期</p> <p>発生初期に適用薬剤を散布する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高温期の雨が少ない気象条件で発生が多い。 ・生長点付近の新葉を食害するため、その後の生育が止まり、被害が大きくなる。
ハクサイダニ	<p>植付前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ほ場周囲の雑草でも繁殖するため、雑草防除を行う。 2. 夏季にポリ被覆により太陽熱消毒をする。 (太陽熱消毒法による土壌害虫の防除の項参照) <p>収穫後</p> <p>植物残さは放置せず、直ちに鋤込み処分する。 (ハクサイダニの防除対策の項参照)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高湿度状態だと、45℃3日で休眠卵は死滅する。 ・本虫は休眠卵で越冬し、16℃以下になると孵化を始め、第1世代成虫(休眠卵から孵化したもの)が11月頃から発生し、春先まで被害が見られる。 ・暖冬の年は発生量が多く被害も大きくなる。 ・行動はきわめてすばやく、わずかな振動で葉陰や株もとに隠れる。

野菜類－根菜類－だいこん－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						白さび病	ワツカ症	黒斑細菌病	軟腐病	白斑病	亀裂褐変症(リゾクトニア菌)
1	Zボルドー		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-
2	アミスター20フロアブル		普	アゾキシストロピン	11	○	○	-	-	-	-
3	カスミンバリダシン液剤		普	1.カスガマイシン 2.バリダマイシン	24、U18	-	-	-	○	-	-
4	カスミンボルドー		普	1.カスガマイシン 2.銅	24、M1	-	○	○	○	-	-
5	カセット水和剤		普	1.オキシリニック酸 2.カスガマイシン	31、24	-	-	○	○	-	-
6	カッパーシン水和剤		普	1.カスガマイシン 2.銅	24、M1	-	○	○	○	-	-
7	スターナ水和剤		普	オキシリニック酸	31	-	-	-	○	-	-
8	ダコニール1000		普	TPN	M5	○	○	-	-	○	-
9	バンタック水和剤75		普	メプロニル	7	-	-	-	-	-	○
10	バリダシン液剤5		普	バリダマイシン	U18	-	-	-	○	-	-
11	ピシロックフロアブル		普	ピカルブトラゾクス	U17	○	○	-	-	-	-
12	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	-	-	-	-	○
13	フロンサイド粉剤		普	フルアジナム	29	-	-	-	-	-	○
14	マテリーナ水和剤		普	1.オキシリニック酸 2.ストレプトマイシン	31、25	-	-	-	○	-	-
15	メジャーフロアブル		普	ピコキシストロピン	11	○	○	-	-	-	-
16	ユニフォーム粒剤		普	【*1】	11,4	○	-	-	-	-	-
17	ヨネポン水和剤		普	ノニルフェノールスルホン酸銅	M1	○	-	○	○	-	-
18	ランマンフロアブル		普	シアゾファミド	21	○	○	-	-	-	-
19	リゾレックス粉剤		普	トルクロホスメチル	14	-	-	-	-	-	○

【*1】1. アゾキシストロピン 2. メタラキシル及びメタラキシルM

野菜類－根菜類－だいこん－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機分類	病害虫雑草名																	
					アブラムシ類	カブラハバチ	カブラハバチ類	カブラハバチ幼虫	ハイマダラノメイガ	コナガ	アオムシ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	キスジノミハムシ	タネバエ	ナモグリバエ	ネキリムシ類	ケラ	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ		
1	アクタラ粒剤5	抑制	普	チアメキサム	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメキサム	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	アグロスリン水和剤	抑制	劇	シベルメトリン	3A	○	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	アタブロン乳剤	抑制	普	クロルフルアズロン	15	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
5	アディオオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	アドマイヤー1粒剤		普	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	アドマイヤーフロアブル		劇	イミダクロプリド	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	アニキ乳剤		普	レピメクテン	6	-	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	アフアーム乳剤	抑制	普	エマメクテン安息香酸塩	6	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	アルバリン粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
11	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
12	ウララDF		普	フロニカミド	29	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	エルサン乳剤		劇	PAP	1B	○	-	-	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
14	オルトラン粒剤		普	アセフェート	1B	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	ガードバイトA	抑制	普	ペルメトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
16	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17	グレーシア乳剤	抑制	普	フルキサメタミド	30	-	○	-	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
18	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	ジェイエース粒剤		普	アセフェート	1B	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	スタークル粒剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-
21	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
22	スピノエース顆粒水和剤	抑制	普	スピノサド	5	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
23	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	○	-	-	-
24	ダントツ粒剤	抑制	普	クロチアニジン	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25	ディアナSC		普	スピネトラム	5	-	○	-	-	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
26	トランスフォームフロアブル		普	スフホキサフル	4C	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27	トルネードエースDF	抑制	普	インドキサカルブ及びインドキサカルブMP	22A	-	-	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンプロックス	3A	○	-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
29	ネキリエースK		普	イソキサチオン	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-

野菜類－根菜類－だいこん－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2022/11/1

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名															
						アブラムシ類	カブラハバチ	カブラハバチ類	カブラハバチ幼虫	ハイマダラノメイガ	コナガ	アオムシ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	キスジノミハムシ	タネバエ	ナモグリバエ	ネキリムシ類	ケラ	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ
30	ネマトリンエース粒剤		普	ホスチアゼート	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○
31	ハクサップ水和剤	抑制	劇	1. フェンバレレート 2. マラソン	3A、1B	○	○	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
32	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	○	○	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
33	ハチハチ乳剤	抑制	劇	トルフェンピラド	I:21A F:39	○	○	-	-	○	○	○	-	-	○	-	○	-	-	-	-
34	ビーラム粒剤		普	フルオピラム	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○
35	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36	フォース粒剤	抑制	劇	テフルトリン	3A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
37	プリロソソ粒剤オメガ	抑制	普	シアントラニプリ ロール	28	○	-	○	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-
38	プレオフロアブル		普	ピリダリル	un	-	○	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
39	プレバソソフロアブル5	抑制	普	クロラントラニプリ ロール	28	-	-	○	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
40	ベストガード水溶剤		普	ニテンピラム	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
41	ベネビアOD	抑制	普	シアントラニプリ ロール	28	○	-	○	-	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
42	マッチ乳剤	抑制	普	ルフェスロン	15	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
43	マラソン乳剤		普	マラソン	1B	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-
44	モスピラン粒剤	抑制	普	アセタミプリド	4A	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
45	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	○	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
46	ラグビーMC粒剤		普	カズサホス	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	○
47	ランネット45DF	重点	劇	メソミル	1A	○	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
48	リーフガード顆粒水和剤	抑制	劇	チオシクラム	14	○	○	-	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-

13-(25) だいこん（野菜類、根菜類、あぶらな科野菜に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
黒腐病 軟腐病	播種前 アブラナ科野菜の連作を避ける。	・無機銅水和剤は薬害が発生する場合がありますので、炭酸カルシウム水和剤を加用する。
黒斑細菌病	播種前 アブラナ科野菜の連作を避け、輪作を行う。 生育期 1. 排水対策を行い地下水位の高いほ場では高畦にする。 2. 発病株は抜き取ってほ場外に持ち出して処分する。 3. 発生前の予防または発生初期に適用薬剤を散布する。	・黒芯症状をおこすことがある。 ・高温多雨の年に突発的に大発生して問題となる。砂質土壌で発病しやすい。
萎黄病 パーティシリウム黒点病	播種前 1. 連作を避ける。 2. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） 3. 抵抗性品種（萎黄病のみ）を栽培する。	・萎黄病抵抗性品種でも、菌密度の高いほ場では発病する場合があります。 ・パーティシリウム黒点病はカタネグサレセンチュウによって発病が助長されるので、防除にあたっては、センチュウ防除も合わせて行う。
リゾクトニア病	播種前 1. 連作を避ける。 2. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） 3. 発病が心配される場合には、適用薬剤を処理して予防に努める。	・冷涼多湿条件で発生が多い。 ・根をはじめ、葉柄、葉など全身に発生する。 ・発芽後の小さい株では、地際部が褐変してくびれ、苗立ち枯れ症状を起こす。 ・肥大根の表面に、円形～不整形、または帯状で淡褐色～黒褐色の亀裂褐変症状や横縞症状を生じる。
黒斑病	播種前 1. 排水不良、地下水位の高い畑はこれらを改善する。 2. 肥切れしないように適正な施肥を行う。 生育期 1. 生育中期以降から収穫期まで発生するので、初発生時に防除する。 2. 春作では大きな被害にならないが、発生が認められたら早めに防除する。	・葉に淡褐色円形、径2～3mmの病斑を生ずる。病斑は次第に大きくなり、径1cm内外の同心円状輪紋が現れる。 ・病徴が黒斑細菌病と類似するので、菌の同定を行う。
モザイク病	播種前 1. 抵抗性品種を栽培する。 2. KOBマルチ(黒)、シルバー又は白黒ダブルマルチなどによりアブラムシ類の飛来を防止する。 生育期 アブラムシ類の防除を行う。	
センチュウ類	播種前 1. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） 2. ネグサレセンチュウには対抗植物を利用する。（ネグサレセンチュウの防除対策の項参照） 3. 被害が心配される場合には、適用薬剤を処理して対策に努める。	・トウモロコシ跡地はカタネグサレセンチュウが多い場合がある。 ・輪作作物としてラッカセイ、サトイモ、アスパラガス等は、ネグサレセンチュウを抑制する。
キスジノミハムシ	播種前 適用薬剤（粒剤）を使用する。 生育期 1. ほ場周辺の除草をする。 2. 0.8mm目合いの防虫ネットで被覆する。 3. 適用薬剤で防除を行う。 収穫後 収穫残さは、ほ場に残さないようにする。	・多湿土壌での発生が多い。 ・前作にエンバク（ニューオーツ、ハイオーツ等）の作付けにより発生抑制効果がある。

